



# 1.公益信託世田谷まちづくりファンドの基礎知識

## 「世田谷まちづくりファンド」とは

- '92年(平成4)、公益信託制度を用いて設けた基金。
- 区民の創意と工夫にあふれたまちづくりを促進し、だれもが安心して暮らせる人間性豊かで魅力的なまちを創造することを目的に、地域の発想に根ざした区民主体のまちづくり活動に対する助成事業を行うものです。
- (一財)世田谷トラストまちづくりの前身、(財)世田谷区都市整備公社(委託者)が資金を出し、三井住友信託銀行(前中央三井信託銀行、受託者)が事業を実施しました。
- 当初、区民・企業・行政の三者からの寄付や資金を合わせて大きく育ててゆく構想でした。
- '25年(令和7)、第33回目の助成事業実施をもって信託財産が消滅し、公益信託は終了しました。

## 助成事業の運営について

### 1)公開審査会方式による助成決定(写真左)

選考プロセスの透明性を確保するため、公開の場で運営委員と応募グループ間のやりとりに基づき、助成先・金額を決定します。

### 2)「学びあい育ちあう場」としての運営(写真中央)

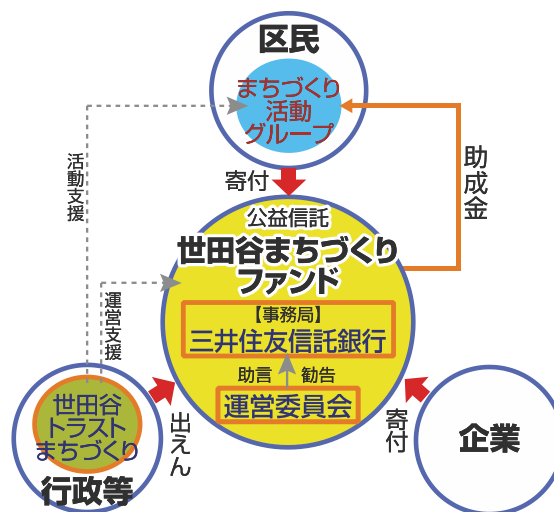
活動グループ相互の情報交換や学習の場、他グループとのネットワーク形成の機会として、まちづくり交流会等を開催しています。

### 3)市民サポーターによるファンド支援(写真右)

「まちづくり広場」などの市民サポーターが参画し、発表会・交流会などを企画・運営しました。公開審査会の運営にも協力しています。

## 運営委員(会)とは

- 運営委員会は、毎年の助成事業の進め方、助成先・金額などを受託者に助言・勧告する主体です。
- 運営委員長は6代、委員は33年間で全75人。
- 各分野の専門家や活動者などから構成され、過去にファンドの助成を受けた「卒業生」も、世田谷区の都市整備政策部長も一員です。



- 運営に携わる主体
- 1) 三井住友信託銀行：財産の管理・運用と助成事業の運営
  - 2) 運営委員会：助成先の選考などについて助言・勧告
  - 3) 信託管理人：資産の管理・運用や各年度の事業計画・事業報告の承認
  - 4) 世田谷トラストまちづくり
    - ①助成応募にあたっての支援
    - ②活動支援(広報支援/ネットワーク支援/ノウハウ支援)

【図】ファンドのしくみ

## 公益信託世田谷まちづくりファンド助成事業のひとコマ



公開審査会



まちづくり交流会



運営協力する市民サポーター

## 2.世田谷まちづくりファンドの助成実績

### 助成実績

‘92(平成4)のコンペ企画、‘93(平成5)～‘25年(令和7)の全33回のファンド応募件数をあわせると、延べ1,175件であり、助成件数は952件、助成金総額は2億6,950万円でした。また、助成グループは、延べ474グループとなりました。

'92年コンペ&'93(第1回)～'25年(第33回)実績	
応募件数	1,175件
助成件数	952件
応募グループ数	892グループ
助成グループ数	474グループ
助成総額	2億6,950万円
毎年の助成総額(平均)	792.6万円

### 審査部門の概要と推移

ファンドが設立される前段階に「まちづくりコンクール」活動企画コンペが実施されており、これを含めると11の審査部門が展開されました。運営委員会では、よりよいファンドの活用、その時々々の社会課題やニーズについて提議され、部門の設定のほか、運営に関する議論が常に進められてきました。「まちづくり活動部門」や「はじめの一步部門」といった基本となる応募部門のほか、各時期におけるテーマ設定はその時代の問題・関心を反映しています。

年度	部門構成
1992	(活動企画コンペ実施)
公益信託世田谷まちづくりファンド設立 1992.12.1	
1993	'93年度～まちづくり活動部門
1996	'96年度～はじめの一步部門
2002	'93-05年度まちづくりハウス部門
2006	'93-01年度まちづくり交流部門
2012	'02-10年度特別部門
2014	'06-13年度まちを元気にする拠点づくり部門
2019	'12年度～10代まちづくり部門
2021	'14-20年度キラ星応援コミュニティ部門
2025	'12～15年度災害対策・復興まちづくり部門
	'19年度改編U23チャレンジ部門
	'21～24年度つながりラボ部門

直近の主な4部門を紹介します。

#### 1)はじめの一步部門

書類審査により決定する、これからまちづくり活動の一步を踏み出そうとしているグループの活動への助成です。まちづくりへの挑戦の敷居を下げる部門として、'96年(平成8)から開始しました。

#### 2)まちづくり活動部門

当初から現在まで続く部門です。地域の住みよい環境をめざす住民グループのさまざまなまちづくり活動に対して、基本的に3回までの応募が可能で、審査は公開型で行われています。連続して助成を受けることが多くありますが、小休止後に活用する例もあります。'20-21年(令和2-3)はコロナ禍での特別措置として4回目の助成を可能としました。助成後、まちを元気にする拠点づくり部門、災害対策復興まちづくり部門、キラ星応援コミュニティ部門を活用したグループもありました。

#### 3)U23チャレンジ部門

若い人たちのまちづくりへの参画を応援する部門として、'12年(平成24)に10代まちづくり部門として創設されました。'19年(平成31)に改編し、書類審査方式というチャレンジしやすい環境を整えました。

#### 4)つながりラボ部門

'21-'24年(令和3-6)実施した部門です。コロナ禍をはじめとした社会状況の変化に対応して、拠点を所有する団体が他のグループ等と協働し、世田谷のまちや暮らしの課題を解決したり、新たな価値を創造しようとする実験的な活動を対象とするものです。暮らしに根差した視点と柔軟性、地域のつながりを活かした機動力をもって、問題解決を実験的に進める応用力に期待した部門です。コロナ禍での経済的に困窮する方々への支援としてフードバンクに連携協力する団体もありました。

## 毎年の助成状況・部門毎の応募実績

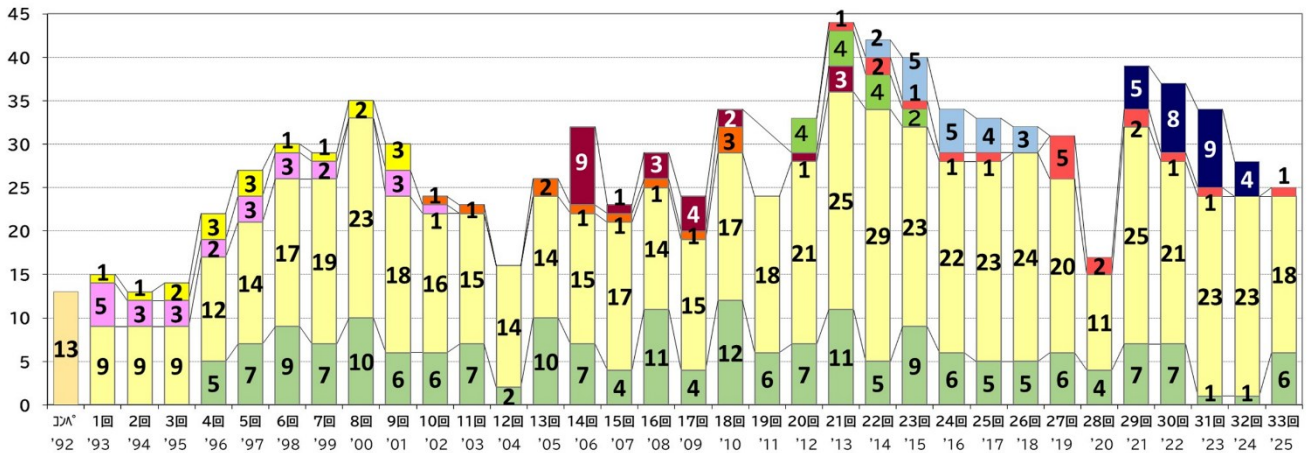
各年度の応募件数は、平均で毎年 34 件、助成成立件数は 28 件、採用率は 81% でした。新規は、毎年平均 13.9 程度のグループの応募がありました。毎年の応募状況・助成状況には幅があります。

### ○助成件数が大きく減少した3回とその改善策

'94 年（平成 6）時は応募の敷居を下げる「はじめの一步部門」の創設、'04 年（平成 16）は「運営委員が地域へ出向いて行う応募説明会の開催」により盛り返しました。'20 年（令和 2）はコロナ禍で創設以来の中止の可能性もありながら、秋にオンラインで公開審査会を開催しました。「つながりラボ部門」の創設や、まちづくり活動部門 4 回目助成（'21-22）を可能にしたことで、翌年助成件数は倍増しました。

## ○助成グループの活動展開を支える部門

ファンドは、「はじめの一步部門」、「まちづくり活動部門」をスタートアップ部門とすると、その後の活動の自立や事業的な展開を支える部門も、地域社会のニーズやあるべき姿を考えながら設定されました。「活動の経緯や取り組みをまとめ公表する」（特別部門：ネット文庫部門）、「拠点を持つ・整備する」（まちを元気にする拠点部門）、「活動の持続・事業性等に取り組む」（キラ星応援コミュニティ部門）、「拠点があることならではのポテンシャルを発揮する」（つながりラボ部門）です。助成グループは、その時々設定される部門を活かし、可能性を伸ばしてくことにもなりました。



主な部門	件数	グループ
'96-25 緑 始めの一步部門	193	193
'93-25 黄 まちづくり活動部門	593	292
'12-25 赤 U23 チャレンジ部門	18	18
'21-24 青 つながりラボ部門	26	14

過去の部門	件数	グループ	部門概要
'92 黄 活動企画コンペ	13	13	公益信託世田谷まちづくりファンドの助成制度（助成先の審査や決定方法、要綱の内容等）を実践的に検討することをねらいとして実施
'93-05 紫 まちづくりハウス部門	25	13	地域に根ざし、特定の専門的技術や経験を活かし、住民主体のまちづくりを継続的に支援、実践する非営利組織（まちづくりハウスの）設置準備や運営を行う組織・個人に対して助成
'93-01 黄 まちづくり交流部門	17	10	住民主体のまちづくり活動グループ相互の情報交換、ネットワーク形成の機会・場を設ける交流活動に助成
'02-10 赤 特別部門	11	11	テーマを提起して活動を募る部門 「ファンドの資金集め企画とその実践」（'02-03） 「都市の新しい居住を提案する調査活動」（'04） 「ネット文庫制作」（'05-10）
'06-13 赤 まちを元気にする拠点づくり部門（予備選考のみカウント）	23	23	地域の多様なネットワークを形成し、環境共生地域共生のまちづくりやコミュニティの課題解決力を高める拠点づくり整備事業への助成。（一財）民間都市開発推進機構から拠出された資金を活用
'12-15 緑 災害対策復興まちづくり部門	14	7	区内での住民主体のまちづくりの活動実績があり、東日本大震災の復興活動を行うグループが活動を通して世田谷のまちづくりへの災害復興・対策等に関する知識経験成果を還元し、区民と分かち合う活動に助成
'14-19 青 キラ星応援コミュニティ部門	19	12	世田谷のモデルとなる成長力のあるまちづくり活動に対する助成。組織力強化、事業化などを想定した、伴走型支援が特徴

- 助成グループによる部門活用—
- 最大は 5 部門活用（1 グループ）
  - 4 部門活用（2 グループ）
  - 3 部門活用（6 グループ）

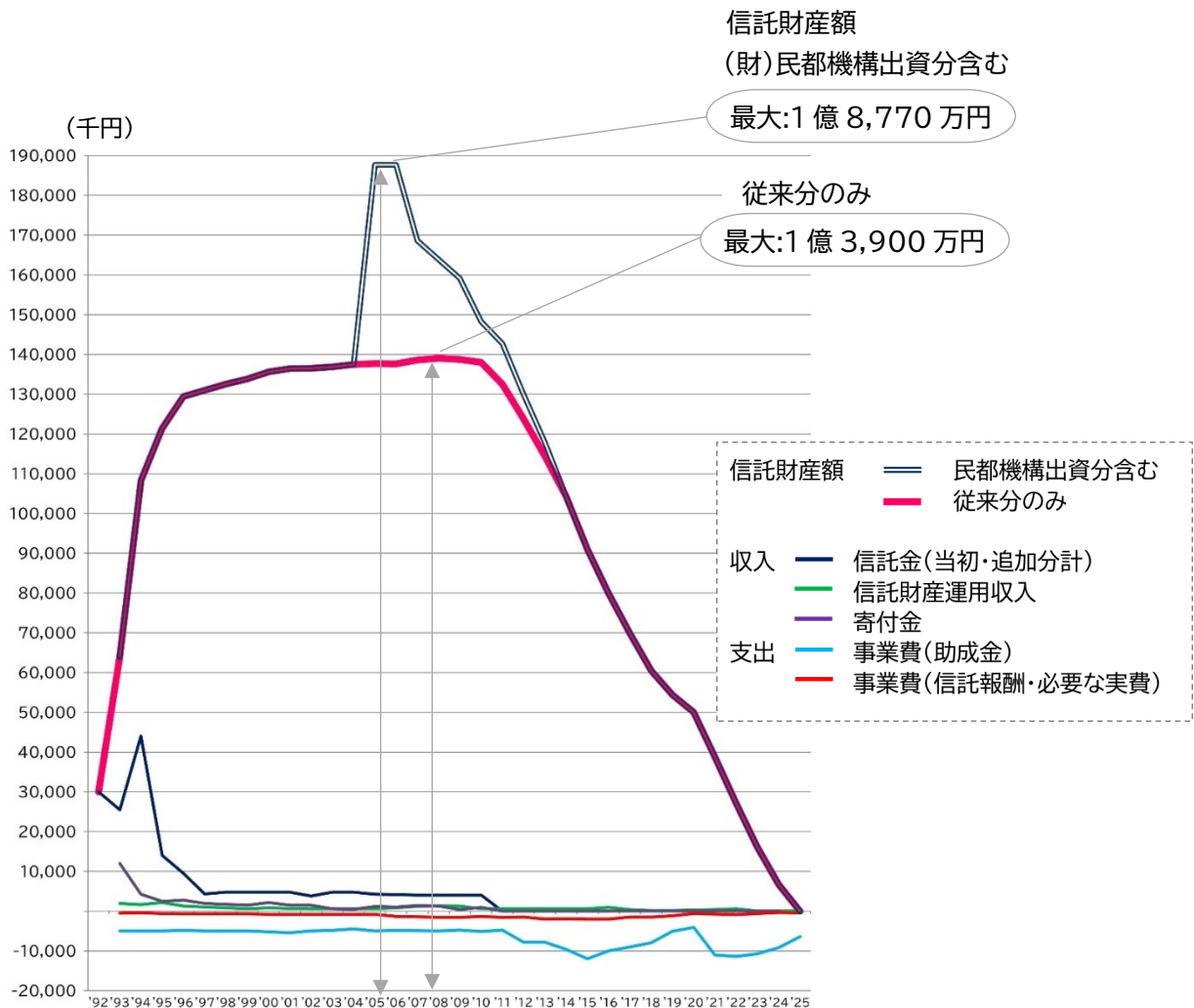
# 3.世田谷まちづくりファンドの財産推移

## ファンドの財産推移

'96年(平成8)までは信託金の上積みにより急増してゆき、以降は少しずつ増加しました。'08年(平成20)、従来基金の財産額は1億3,900万円と最大になります。ハード整備用資金として(財)民間都市開発推進機構から拠出された資金を含むと、財産総額の最大値は'05年(平成17)の1億8,770万円でした。'09年(平成21)以降は減少し始め'11年(平成23)には大幅に減少しました。低金利による財産運用収入の停滞、事務費の増加、寄付金の減少とともに、区の財政難により追加分の信託金が'11年になくなり、以降は財産を使い切るまで続けることになりました。

## ファンドへの寄付

当初ファンドは寄付を集めながら、基金を大きく育てていく構想を持っていました。スタート時はチャリティコンサート開催などの積極的な寄付集めの取り組みが行われ、毎年200万円を超えていました。また'02-'03年(平成14-15)には、特別部門で「ファンドへの資金集めの企画とその実験」をテーマ提起するほか、寄付拡充についての検討は進めていましたが、減少していきました。



## 4.中間活動発表会・まちづくり交流会・最終活動発表会

### 活動グループの学びあい・情報交換の場

ファンドでは、スタート時より中間発表会・最終活動発表会を設定していました。助成グループは他のまちづくり活動グループとの情報交換を通じて、関係づくりを進めることや、他の活動方法を知ることにより今後の活動をより充実してもらおうというのがねらいです。

中間活動発表会は、'11年（平成23）より「まちづくり交流会」へ変更し、毎年テーマを設定したオープンな交流の場を設けています。

さらに、初めて助成を受けるグループを主な対象にした「ウェルカム懇親会」を'07年（平成19）より開始しました。助成決定直後にファンド関係者や助成グループ同士の懇談の場を設けることで、活動を進めるための人や情報とつながるきっかけをつくっています。現在も「はじめまして交流会」として継続しています。



年度	まちづくり交流会 テーマ一覧
2011 (H23)	活動への共感の輪を広げるために（プロボノから学ぶ）
2012 (H24)	社会起業とまちづくり
2013 (H25)	インターネットを活用し、人々の共感を得て資金を集めるクラウドファンディング
2014 (H26)	フューチャーセッションで世田谷のまちづくりの未来を考える
2015 (H27)	ワカモノが発想する地域デザイン
2016 (H28)	コラボレーションが生み出す可能性
2017 (H29)	活動の”つながり”をひもとく
2018 (H30)	わかりやすく伝えるために整理する
2019 (R1)	はじめましてをデザインする
2020 (R2)	[オンライン] 今みんなで話す 変化したこと・しないこと
2021 (R3)	[オンライン] 話そう 活動の「今」と「これから」
2022 (R4)	自分たちの活動の中にある可能性を探る
2023 (R5)	団体の経験やノウハウを共有し合う
2024 (R6)	共創と私たちの可能性
2025 (R7)	活動の魅力を再発見しよう！～気づかないのはモッタイナイ～

## 5.助成グループの活動テーマ

ここでのテーマは、ファンド20周年記念誌「ファンドがひらいた世田谷のまちづくり～20年とこれから」で行った、助成グループの活動テーマ分類を元に、その後'12-25年（平成24-令和7）のグループの分類と比較したものです。比較が大きい4つの活動テーマの近年の特徴をみてみます。

### ②子育て、子どもの居場所づくり等の活動

同じ子育てがテーマでもグループ独自の視点による語らいの場や地域との接点づくりのほか、親子の関係性に着目した取り組みなどがあります。空き家や自宅を活用した居場所づくり、小学校を起点とする環境学習や遊び場づくり、世田谷の自然環境を活かした活動などが見られます。

### ⑫まちの活性化や商店街等の振興・PR等の活動

住民主体のまちづくりとして、まちの変化やまちの賑わいに、地元商店街や町会・自治会・大学などつながりながら、地域の住民独自のアプローチによる活動が増えたようです。

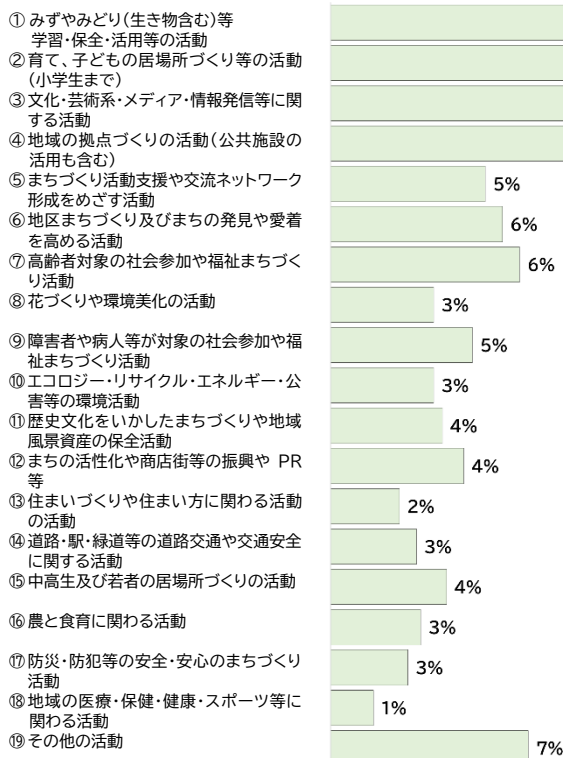
### ⑮中高生及び若者の居場所づくりの活動

対象を若者に限定した部門を設定したことで、世田谷のまちでのチャレンジの後押しになったほか、まちづくり活動部門でも、大学生の研究や自主的な取り組みが増えたことも関連があると考えられます。

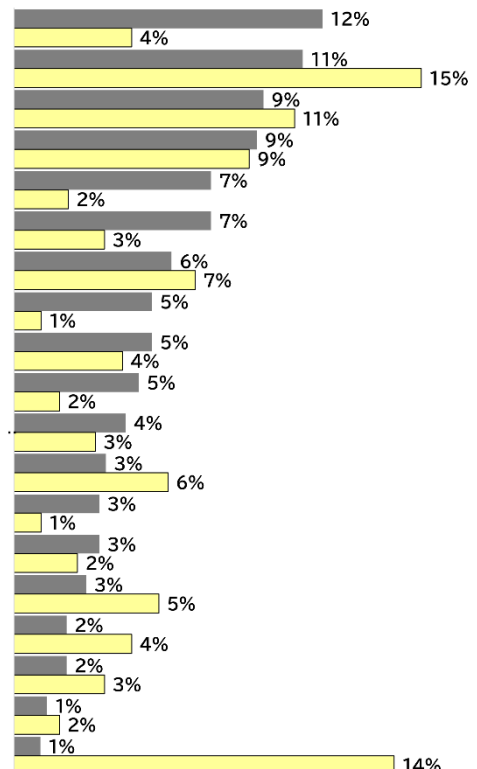
### ⑲その他の活動

20周年時の分類にはなかったものとして、例えば外国人を対象とした活動も、文化交流に限らず、暮らしの悩みの語らいの場など在住外国人の課題に関する活動が見られます。また当事者自らが社会課題に向き合うものとして、生きづらさを抱える当事者自らの居場所づくり活動があります。そのほかにも、多世代や多様性（ごちゃまぜ）、ジェンダー問題、身近な暮らしの困りごとの解決への取り組みなど、社会を反映した取り組みも見られます。

テーマ分類 助成グループ割合  
'92-25年(N=474G)



割合比較 '92-'11年(N=259G)  
'12-'25年(N=215G)



## 6.助成後の活動グループは？

### 活動継続状況（2025.12 時点）

全 474 グループのうち、助成後も活動を続けているのは、45%です。さらに細かく見ていくと、ファンド 20 周年の調査時点での対象グループ 276 のうち 34%、2013 年以降の対象グループ 198 のうち 60% が継続していると思われます。

助成G	継続G	継続率	
企画コンペ-第20回 (1992-2012)	276	95	34.4%
第21回-33回 (2013-2025)	198	119	60.1%
計	474	214	45.1%

#### 調査方法

- Web リサーチ  
対象グループの 1 年間の動向をホームページ、SNS、NPO 法人ポータルサイト、世田谷区サイト等で検索
- Web アンケート  
全助成グループのうち、2012 年調査時に継続している団体及び 2013~2024 年の助成団体へ依頼
- 口コミ

### 組織形態別活動状況

ファンドは区民の創意と工夫にあふれ、地域の発想に根ざした区民主体のまちづくり活動に対する助成であるため、応募グループは任意団体での活動が多くを占めています。2025 年調査では、任意団体の継続率は 42%でした。これは活動状況が不明であるものも多いためです。NPO 法人を含めた法人での申請はファンド全体の 6% (31G) となっており、法人の継続率は 90%でした。

応募時の形態	2025調査時点	継続率	
任意団体 (443)	任意団体のまま継続	146	42%
	法人化して継続	40	
	活動休止・終了・不明	257	58%
法人 (31)	法人を継続	26	90%
	法人を解散して継続	2	
	法人解散・終了・不明	3	10%

### 助成中・助成後の法人化

助成中または助成後に法人化したグループは 45。その 89%が継続しています。近年の傾向として一般社団法人化も増えています。株式会社、有限会社は、ファンド初期の活動部門やハウス部門からの法人化によるものです。

助成中・助成後の法人化分類 (2025年時点)	法人化後の継続状況			
	継続	解散不明	継続率	
①NPO法人	29	24	5	
②一般社団法人	9	9	0	
③一般財団法人	1	1	0	
④社会福祉法人	1	1	0	
⑤株式会社	4	4	0	
⑥有限会社	1	1	0	
計	45	40	5	88.9%

### 法人化とファンド活用のタイミング

助成中・助成後に法人化した 45 グループのうち、応募から 5 年以内の法人化が 29 グループ (64%) でした。法人としての応募 31 グループは、初回応募時点での法人歴 5 年以内が 21 グループ (67%) でした。ファンドが法人化前後の比較的早い時期に活用されていることが見えます。キラ星部門は、助成中の法人化 3 件を含めて、部門助成団体 12 のうち法人は 9 団体になりました。

### 活動の継続のしかたはさまざま

継続するグループは、そのまま任意団体として続ける場合、あるいは個人の活動になっていく場合があります。10 年という活動期間を経て NPO 法人化する例もあります。また、NPO 法人を解散後、任意団体として活動を続けグループもありました。当然と言えば当然ですが、活動の内容、メンバーの状況、施策との連携状況等を含めて、自分たちらしい活動体制をとっているということがファンド助成グループのその後から見るができます。

## 7.web アンケートから見るグループの活動成果と課題

### web アンケートの実施

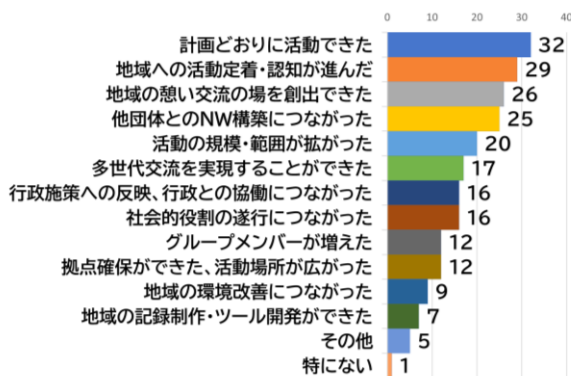
実施期間：2025年12月25日-2026年1月25日

対象グループ：2012年調査時の継続グループ（156）及び2013～2024年助成グループ（173）

回答数：45（回答率13.7%）

### 助成金を活用したことによる活動成果

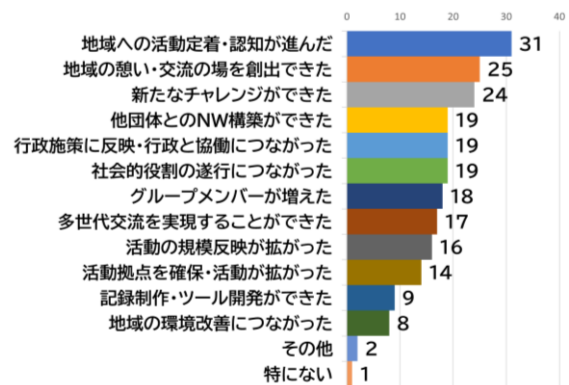
助成金を受けたことによる成果(複数回答)



「計画通りに活動できた」、「活動が定着した」、「地域への活動定着・認知が進んだ」、「地域の憩い・交流の場を創出できた」、「他団体とのネットワーク構築につながった」という意見が続きました。

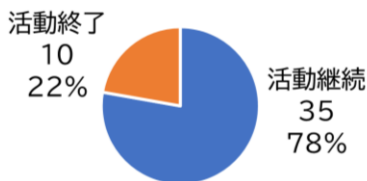
### 活動を継続したことによる成果

活動継続の成果(複数回答)



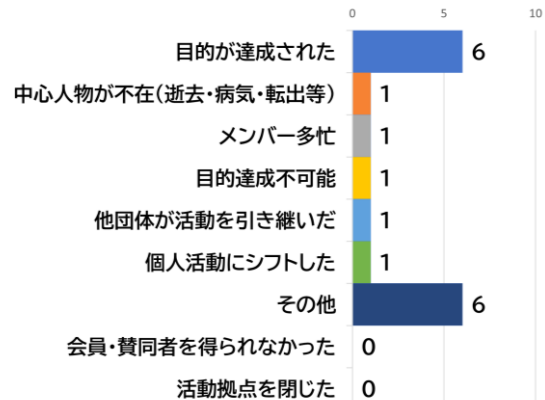
活動を継続したことにより、「活動が定着した」、「地域への活動定着・認知が進んだ」、「地域の憩い・交流の場を創出できた」、「新たなチャレンジができた」、「他団体とのネットワーク構築ができた」を成果としてあげています。

### 活動状況と終了理由



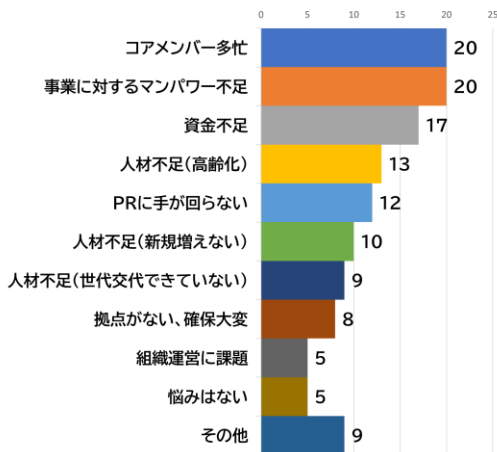
回答グループの78%は、活動を継続しています。活動を終了したグループの最大の理由は「目的が達成された」というものです。プロジェクトを通じてある程度の成果を出すことができた、具体的な次のアクションにつなげることができたという回答もありました。そのほかにも、活動拠点の契約終了のため活動も終了した、代表者が多忙のため休止中などの回答がありました。

活動終了の理由



## 活動を継続していく上での課題や悩み

活動継続グループの課題や悩み(複数回答)



課題や悩みの多くは、人材に関すること。高齢化・新規メンバーが増えない・世代交代が出来ていないをあわせると半数以上のグループがいずれかに回答しています。

人材の悩みは、コアメンバーの多忙な状況、現在の事業を進める上でのマンパワー不足、PRに手が回らないなどの課題、それを補う資金に関する課題などに関連づけられるようにも思われます。

人材に関する課題は 20th 調査時も最大の悩みとして出ており、活動を進める上で、新たな関わりや共感をどのようにつくっていくかが活動継続の上での課題として見えています。

自由記述では以下の意見がありました。

○組織運営において、複数の事業や多様なスタッフの連携や情報共有に努め、現場を支える事務局体制を心がけている

○目ざしたいことやその可能性は見えてるが、どうやって形(仕組みや制度)にしていくか

○スペシャリストの高齢化に伴う後継者不足で水準の維持が難しそう

○高齢化により活動継続が困難になる一方で、若い人たちは、既存グループへの所属よりも自分たちのやり方でやりたいのではないかと

○新たな人を巻き込み活発化するのも考えたが、実現するのは難しい

## ファンド以外の助成金の活用

アンケート回答の 64% (29G) が活用しており、うち世田谷区の助成・補助事業活用しているのは、69% (20G) でした。

ファンド助成グループが利用した世田谷区の助成・補助事業は以下となりました。

助成・補助事業
地域の絆 補助金
子ども基金
提案型協働事業 (終了)
らぶらす 区民企画協働事業
おでかけひろば事業
子どもの学び場運営スタートアップ事業
高齢者社会参加促進支援補助事業
せたがやクラファン! チャレンジ
歳末たすけあい・地域支えあい募金 (赤い羽根共同募金)
空き家等地域貢献活用助成事業
グリーンサポート事業

世田谷区の助成・補助事業以外では、ボランティア基金ゆめ応援ファンド、東急子ども応援プログラム、キリン福祉財団、西武信用金庫助成、コープみらい財団などの助成のほか、クラウドファンディングの活用事例もありました。

## 世田谷区政・施策とのつながり

世田谷区とのつながりがあると回答したグループは全体の60%（27G）でした。子育てメッセ（11G）や生涯現役ネットワーク（3G）など多様な活動団体と連携したイベントや会議体への参加、地域風景資産を守り育てる風景づくり活動団体（9G）のほか、協定締結、協働プロジェクト、事業受託など。具体例は以下のとおりです。回答グループを見ても区政・施策への多様な関わりがあり、施策を進めるパートナーとなっていることがわかります。

### ○協定締結による活動

緑地の保全活用、屋外の遊び場づくり、環境（生物）調査、区立小中学校の樹木剪定

### ○協働プロジェクトの実施

外遊び事業、コミュニティデザインと賑わいづくり事業、再開発にあわせたまちづくり会議への協力、プレーパークの施設整備、男女共同参画の取り組み協力、高齢者の食事に関する活動連携ほか

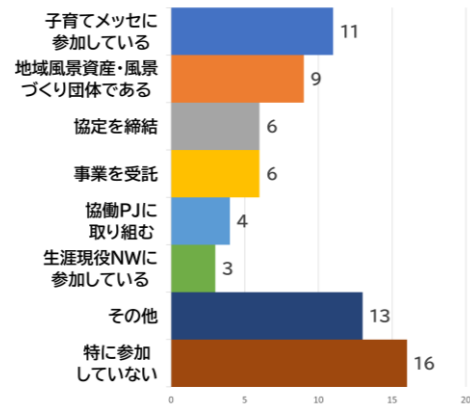
### ○テーマ別会議への参加・提言

福祉、自然、リサイクル等、世田谷区の施策に関連する会議体への参加・出席や提言

### ○事業の受託

おでかけひろば事業、プレーパーク事業、住民参加型公園計画・整備プランづくり、住民主体型サービス、行政職員研修ほか

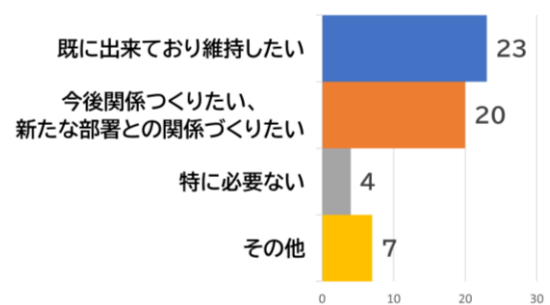
区政・施策とのつながり(複数回答)



## 行政との今後の関係づくり

行政とは、既に関係が出来ており維持していきたい（23G）、新たな関係をつくりたい（20G）となっています。既存の関係についても、自由記述では、「相互理解を深めることや双方の認識をすり合わせて改善していく必要がある」、「自分たちらしさを発揮するために行政職員個人との関係を大事にしたい」、「多様な困り事を抱える女性への中期的支援の必要性から複数部署との連携協働を具体化していきたい」という一方で、「委託で縛られるのは…」という意見もありました。

行政との今後の関係づくり(複数回答)



## 大学企業等とのつながり

大学や企業等とは既に関係ができており、維持したい（29G）、今後つくりたい（11G）でした。「行政の枠にとらわれない柔軟な活動を持続していくために企業理解を深めることや大学との連携協働にもチャレンジしたい」という意見や、「大学とのつながりを持続するのは難しい」という意見もありました。

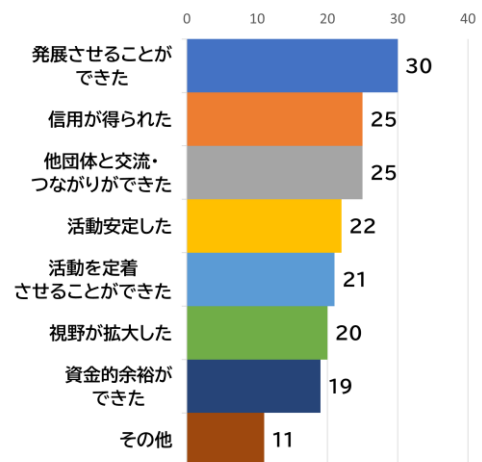
## 8.web アンケートから見るファンドへの感想

### ファンドを受けての感想

資金支援によって活動を発展させることができた、助成グループであることを表明することで信用が得られたという意見のほか、他団体との交流・つながりができたという意見が続きました。助成グループには学びあい、交流する場に参加必須という条件をつけており、結果的に他団体との関係づくりにつながっていることもファンドの特徴と言えます。

以下は自由記入でいただいた意見となります。

ファンドを受けての感想(複数回答)



### 公開審査会について

- ・面倒だと思ったこともあるが、公開審査で運営委員や他団体の方々に認められたことで自信を持つことができた。
- ・公開の場で自分たちのビジョンをプレゼンし、助成いただく形で周囲から期待されるというのはとても得難い経験。
- ・第三者にプレゼンをするという機会を得て、「自分たちはどうしたいか?」「どう進めていけばいいのか?」を仲間たちと話し合い、具現化することができた。成果を冊子にして、地域のみなさんへ周知を行い、仲間の輪を広げることができた。
- ・他の活動を知ることで視野が広がった。
- ・みんなで参加し、チーム感が出たのを覚えている。ドキドキした。
- ・発表時間は短かったが、概ね丁寧に対応してもらった。
- ・審査の透明性が印象的。
- ・世代もジャンルも幅広く、いろいろな意味で多様で面白い、そしてアットホームなコミュニティ。今どき模造紙でのプレゼンテーションと思いつつ、それが続くと楽しいなとも思う。
- ・区が実施している他の補助金の審査に比べると非常にオープンで納得できる。

#### 〈こんなご意見も〉

- ・公開審査の準備、模造紙に書くなど、膨大な時間を割き抵抗感じた。
- ・プレゼンの模造紙はパワポにしてもらいたい。
- ・審査会でのデジタル機器活用を進めたほうが良かったのでは。アナログなことかえって門戸を狭めてしまったような気がする。
- ・公開審査会の拘束時間が長い。
- ・(ポスターセッション時) 誰も来なかった。横のつながりがある人たちの会話が横行して不快だった。

## 事前応募相談について

- ・事前相談に乗ってもらい、自分たちの進むべき道がよりクリアに見えるようになった。
- ・助成金申請のほか、事業そのものについてのアドバイスも頂けたことがとてもありがたかった。

### 〈こんなご意見も〉

- ・事前相談は 1on1 での対応いただいているのだが、別途、複数団体と事務局が集まる対談・相談会のような場もあると、団体の視野が広がりより参考にできる部分があるかも。
- ・難しいかもしれないが、運営委員の方にも事前相談の時から参加していただけると、より多角的な意見が聞けて良いと思う。

## 運営委員について

- ・厳しい審査、優しい審査、厳しくも優しい応援のまなざしを覚えています。
- ・運営委員がどのような経緯で選ばれたのか事前情報としてわかるとよい。

### 〈こんなご意見も〉

- ・言葉がきつかった。

## 交流会について

- ・世田谷でのネットワークが広がった。色々な団体に出会い、大きな刺激を受けた。団体としての活動は終了したが、この経験は別のプロジェクトや仕事にも活かすことができる。
- ・横のつながりをつくる機会があると、コラボできることもあるし、何か一緒にやらなくても同じように地域で頑張る仲間と出会うことで情報や勇気を与え合うことができる。
- ・他の助成グループのサポートにつながった。
- ・色々な団体を知ることができた。他団体との関係が広がった。
- ・区内の団体、運営委員との出会いに感謝。
- ・課題認識を共有できたことが有意義だった。
- ・交流会の実施は大いに評価できる。

### 〈こんなご意見も〉

- ・発言の場が多く、日程調整が大変だった。
- ・審査が厳格で質が高いわりには、交流会は内輪受けな雰囲気です。質が今ひとつ。交流会に疑問をもち、応募を見送った。
- ・自立に向けての連携として他団体というより企業や大学との連携を強めたい。
- ・交流会は、中間報告的なことをしつつ、それをネタにした交流会もありうるのではないかな。
- ・交流の機会を色々設けても良いかも。(活動のヒントになるような勉強会を定期的に開くとか)
- ・活動の振り返りやワークショップでのファシリテーションスキルやノウハウ共有の機会があると、団体の取組みを整理・言語化しやすくなり、活動の意義を再認識することで活動に広がりや生まれるのでは。

## 助成を受けての感想

- ・資金を受けて、財政的に安定すると、広報など活動がしやすくなる。
- ・専門家からは難しいと言われたがチャレンジできた。結果的に良かったのかは自問しているが、生きものが答えを出してくれると思っている。
- ・あと回しになっていたことが計画的に実行でき、その後にもつながった。
- ・志を同じくする仲間とわいわい活動できて楽しかった。
- ・資金をうけて拠点をもつことができた。
- ・助成を活用したことによる信頼で、自信を持って活動できた事は大きかった。少ないメンバーだが、できる事を無理なく続けていきたい。
- ・ワークショップを重ねる毎に現実味ができ行政と協働で進める方向も出、目標に達することができた。
- ・他事例の見学を行政職員と行うことで良いイメージを共有しながら、河川敷や樹木の保全につなげることができた。流域治水やグリーンインフラの取組を後押しすることにもつながったと思っている。
- ・地域で活動することの意義やお金をもらうことの大変さを体験できた。
- ・まちづくりセンターの会議室が利用でき役立っている。

### 〈こんなご意見も〉

- ・かかった時間と金額を考えると自腹を切っても良かったように思えた。
- ・反対運動のような偏見を持たれがちなのが難しい点だった。

## 助成事業への要望

- ・人件費に使えるといい。
- ・少額でも良いのでもう少し長い期間助成していただけたら。
- ・助成金をどう活かしていくかはその年の結果次第。最初はある程度大きなことができて、自分たちで経済を回す体制を整えなければ、継続できない現実がある。活動から事業へステップをあげるしくみがあると、大きな夢が実現できるのではないかと考える。
- ・活動の内容によって部門分けすることもありなのでは。
- ・行政に批判的なグループも活動としての評価が高い場合はひろうような制度にしてほしい。
- ・十分応援してもらった。

### 〈こんなご意見も〉

- ・報告書等が慣れず負担感がある。
- ・助成金以上に活動が発展したのでやりくりが大変だった。
- ・宣伝費用に活用したが、その効果が得られない思いが残った。

## 伴走支援について

・キラ星部門（P4 部門一覧参照）のメンターとの出会いに助けられ、感情に流されずブレない軸をもつことの大切さを学んだ。

### 〈こんなご意見も〉

- ・キラ星部門の伴走者の人選やタッグの組み方や組み合わせ方がもっと明確になったら良かった。
- ・キラ星部門の応援して下さる方の選択は何を基準にしてどういうシステムなのかが最後までわからなかった。
- ・卒業グループからのヘルプやサポートが加わると、初心者グループは心強いかも。
- ・ラボ部門助成団体を中心に、伴走支援役を担うことで、地域全体の支援力やつながりの醸成が図れるのではないか。
- ・ステップアップしたい団体には区民サポーターによる伴走支援があっても良いのかも

## 活動を支える助成事業を続けて欲しい！

- ・手間をかけたフェアな審査、事前相談や伴走支援、資金使途の範囲が狭すぎないことが市民活動を始める団体には適切。
- ・スタート時から助成を受けたことで、市民がまちづくり、ひいては社会問題解決や社会参加の促進、よき社会づくりの担い手にだれもがなれると思えた。チャレンジする勇気や後押しをいただいたおかげで17年目になり、今も継続している。
- ・挑戦できたこと、応援してもらったこと、自分たちだけだけではないという支えになったこと、活動の励みになってうれしかった。
- ・自分がやりたいという強い意志を実現する方法を学び、学ぶ場とつながることの喜びを教わった。
- ・目に見えた成果はでにくいと思うが、まちづくりにおいてめっちゃくちゃ意義のある助成活動だった。現在も活動継続している。
- ・ゼロから活動を後押ししてくれるありがたい制度。
- ・希望を与え、動くことで次の展開やつながりを生んでいくこの助成に感謝。生きのびた活動は新しい担い手へとつながっている。
- ・必ずお金について質問されるが、ファンドという制度で活動できていることを必ず伝えている。全国全ての地域にファンドのような住民主体の活動を支援する制度があるわけではないので、行政などが活動や団体を支えるしくみがどの地域にもあるといい。
- ・キラ星部門もラボ部門も予算の使い方がガチガチに決められていたわけではないので、偶発を大切にしているチームにとっては、とても助かる助成だった。同じような性質の助成制度を続けてもらえると助かる団体がたくさんあると思う。
- ・続いてくれると良い。

### 〈こんなご意見も〉

- ・行政の市民活動の助成事業は、事業の中身を十分に評価して補助金の使い道を判断できない。

## もっと財団に頑張ってもらいたい！

- ・ナショナルトラストの理念「一人の一万ポンドより一万人の一ポンド」を実現する寄附活動の拡大を強化する必要がある。
- ・活用しないのはもったいない。広報の強化を。
- ・趣味の活動と地域課題につながる活動の境目が難しい。いかに自分たちの活動にとどまらず、地域に広げてもらえるか申請時、審査後も追っていけるようになると良いかと思う。
- ・審査方法が2段階から1段階になったことで、落選グループが減ったように思う。その分1団体あたりの助成額が薄くなるので、助成対象とするかの議論を深めてもよかったのかも。
- ・行政に批判的なグループも活動としての評価が高い場合はひろうような制度にしてほしい。
- ・民間団体の専門性やつながりの重要性、厳しい現状を行政に伝え、行政の対等なパートナーとしての位置づけを得られるような働きかけを担ってほしい。
- ・トラまちにしかできない、空き家等地域貢献窓口などに取り組んでいただきたい。
- ・今後の地域共生社会を創るために、市民と一緒に行政職員の教育プログラムを作ってもらいたい。

### 〈こんなご意見も〉

- ・世田谷区は東京都で最も人口が多い区ですから、もっと資金的に余裕があるはず。ふるさと納税による資金を使いたい。

# 9.歴代ファンド助成グループ・アーカイブ

## 1992

1	21 F F G (21世紀をめざす船橋未来グループ)	13	5	
2	ぐるうぶ街	1	16	8
3	楽働クラブ	8	1	
4	三・太ワークショップ実行委員会	4	6	
5	玉川コミュニティガーデン委員会 (No.6へ継承)	1	4	6
6	NPO法人 玉川まちづくりハウス	5		
7	セカンドハンズ	12	5	
8	子どもの環境を考える会	2	4	
9	グループコミュニティプラン (G C P)	10	5	
10	やさしいまちづくりアクセス・マップ 制作委員会	9	7	6
11	太子堂4丁目地区まちづくりを考える会	17	6	
12	えき・みち・まち研究会	14		
13	さくらの会	8	14	

## 1993

14	北沢川せせらぎクラブ (子どもと緑を育てる会)	1	5
15	フレンズオブセミナー ( F O S )	1	
16	グループ・ジュアン	7	
17	建設ユニオン街づくり研究グループ	5	19
18	集合住宅デザインハウス	13	5
19	等々力まちづくりハウス	5	4
20	せたがや街並づくり支援ハウス (現 NPO法人 世田谷まちづくり市民評議会)	5	
21	の〜んびり世田谷ネットワーク	9	
22	せたがやまちづくりフォーラム	5	

## 1994

23	フリースペース” e g g (たまご)”	15	4
24	M I T I	14	12
25	梅ヶ丘まちづくりハウス (現 冒険遊び場と子育て支援研究会)	5	13
26	NPO法人 H A N D S世田谷	9	

## 1995

27	区民提案セミナー〇B会	19	
28	グループ・ド・ネイチャー船橋	1	2
29	多摩川の蘇生を考える会	1	

## 1996

30	豊かな老後を築く会	7		
31	世田谷生ゴミリサイクル・ネットワーククラブ	10	8	
32	楽そしがや	12		
33	NPO法人 コミュニティ・ネットワーク・” ウェーブ”	7	5	
34	コミュニティケアスペースめぐりハウス「まごの手便」 (現 社会福祉法人 めぐはうす)	9		
35	A SEED JAPAN 「Youth Voice 世田谷」	10	3	
36	りすプロ研究会	1		
37	街づくりことばとカタチ研究会	4	19	
38	鳥山みずとみどりの会	1	11	
39	せたがやコーポラティブ・ネット集団 (現 NPO法人 SAHS)	5	13	4
40	赤堤生涯学習センター	4	5	
41	地域における医療・保健・福祉をともに考える会	18		
42	愉快的な住まいの会	13	4	
43	みずの会	1		
44	グループ・カサブランカ	8	7	
45	風の仲間のコンサート実行委員会	3	7	
46	せたがや界隈研究会	12		

## 1997

47	鳥山プレパークをつくる会 (現 NPO法人 プレパークせたがや)	2	1	
48	日本てまりの会本部 (現 (一社) 日本てまりの会)	3		
49	三宿・太子堂のまちづくりを考える会	17	4	
50	燦婆サークル	10	7	
51	エコロジー住宅市民学校	10	13	5
52	バリアフリーまちづくりハウス	9	7	
53	せたがやサポートクラブ	2		
54	水と緑のみち	1		
55	鳥山「生きる場作り」を考える会 (現 (株) 楽多)	9	4	
56	瀬田フォーラムの会	6	13	3
57	鳥山「心をつなぐ」音楽会	3		
58	グループ楽々	7		
59	東深沢まちづくりの会	6		

## 1998

60	すびなっちくらぶ	2	
61	三宿の緑を守る会 (No.161へ継承)	1	4
62	グループ「世田谷の職人」	3	13
63	世田谷にコレクティブハウスを実現する会	13	19

64	世田谷まちづくりフォーラム	13	5	
65	赤とんぼ7 (世田谷インターネット研究会)	3	5	
66	川の未来探検隊	1		
67	あけび会	8	7	
68	多摩川・リバーシップの会	1	4	
69	大原福祉作業所	8	9	
70	演劇文化促進の会	3		
71	鳥山児童館の移転問題を考える会	2		
72	NPO法人 土とみどりを守る会	1	6	
73	NPO法人 芦花公園花の丘友の会	8	1	
74	園むすび 99	6	2	1
75	世田谷移動サービス協議会	9	7	

## 1999

76	ワンワン会議	19		
77	九品仏会話団	3	6	
78	駒沢おつきさまの会	2		
79	NPO法人 せたがや街並保存再生の会	11		
80	せたがやグリーンマップ	1	6	
81	NPO法人 ハイブリッドパークシティフォーラム	10		
82	ママチャリねっと (現 NPO法人 せたがや子育てネット)	2		
83	おはなしランド	3	2	
84	ふたこまちづくりハウス	5		
85	ぐるうぶM s.	1		
86	成城大学ボランティア部	9	6	
87	世田谷親子体操連盟	18		
88	NPO法人 砧・多摩川あそび村	2	1	5
89	世田谷子育てマップの会			

## 2000

90	子育てひろば ありんこパワー	2	15
91	グループ いきいき住みたい	9	7
92	自主保育 駒沢おひさま会	2	
93	成城地域フォーラム	14	
94	パブリックファンドプロジェクト (旧こねくしょん21) (現 (株) 世田谷社)	5	
95	NPO法人 こども劇場せたがや	2	6
96	野沢、上馬、下馬、三軒茶屋 緑の市民ネットワーク	8	1
97	ひこばえ連絡会 (現 NPO法人 せたがや福祉サポートセンター)	7	5
98	鎌田の町を次代に残そう会	6	
99	NPO法人 みんなの森の会	1	2
100	世田谷アドベンチャークラブ	2	
101	喜多見ボンボコ会議	14	6
102	アザレア	8	
103	松原みどりの会	10	
104	若林薬市薬座運営委員会 (現 キディ文化スポーツ振興会)	12	15
105	プロジェクトR e	10	
106	あかげらの会	16	
107	ビューティフル・シニア・ライフ研究会	13	7
108	緑の風	8	
109	風のウオッチング	10	
110	ばる・こどもえくらぶ	10	2

## 2001

111	みんなでやろう会	13	
112	おはなしサークル ティンク	2	
113	せたがや郷土史研究会	6	11
114	ふらっとサロンamigo (現 NPO法人 子育て支援グループamigo)	2	
115	グループ「けやき」	8	
116	おもちゃの診療所 ぐるんぱ	10	2
117	世田谷区立守山小学校「あったらいいな、こんな学校」の会	1	2
118	瀬田の道路環境を考える会	14	
119	代沢せせらぎ公園協議会	1	
120	アインシュタインプロジェクト世田谷 (現 NPO法人 イパーク)	3	10

## 2002

121	レッツゴー太鼓	3	
122	「せたがや里山づくり」ジュニア隊	1	15
123	世田谷福老クラブ	7	
124	子育て支援ピア	2	12
125	小径の会	8	
126	北中ひろば(現 北中広場)	4	
127	NPO法人 野沢3丁目遊び場づくりの会	4	2
128	人の泉・オープンスペース” Be ! ”	10	
129	地域通貨・セタガヤプロジェクト	10	5
130	跡地周辺まちづくり提案住民グループ	6	

## 2003

131	設計局テョリス	3
132	せたがやごみをへらす会	10

133	せた文教サミット	14	13
134	大山みちの会 (現在は同会と「せたがや道楽会」に分離)	11	
135	駒沢給水塔風景資産保存会	11	
136	太中前広場を育てる会	8	15
137	野川とハケの森の会	1	
138	新町パークフレンド	11	
139	船橋小径の会	1	14
140	池之上小学校「ヒ・ホ・ブを守る会」(現ヒ・ホ・ブ見守り隊)	1	2
141	ナチュラル デザイン グループ	1	

## 2004

142	ソーラー花クラブ	8	
143	世田谷まなびばネット	17	
144	世田谷まちづくりドットCOM	5	19
145	NPO法人 世田谷マンション管理組合ネットワーク	13	
146	経堂CAT	3	12
147	上北沢桜並木会議	11	10
148	セタガヤウォーカーズ	6	

## 2005

149	バリアフリーの街成城を考える会	7	14
150	グループ清流	6	
151	ハローサークル	2	9
152	桜上水・みどりの会	1	
153	池ノ上三代マップ準備委員会	6	2
154	玉川パークサポートクラブ	2	
155	「住めば都」を考える会	6	
156	Chick こどもの創造のくに	2	3
157	おやまだいコミュニティ (おやコム)	17	12
158	Over-Generation THE DAP	15	
159	参加のまちづくり研究会/世田谷	19	
160	遊びとまち研究会	2	6
161	三宿の森緑地・緑グループ	1	4
162	世田谷代田SAP	3	6
163	NPO法人 COSFAコスファ	4	5
164	Misatikoh (ミスアティコ)	3	6
165	太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会	3	

## 2006

166	22世紀向上委員会	8		
167	まっちゃん劇場	3		
168	芦花公園団地 花の会	8		
169	せたがや水辺の楽校 (現 NPO法人 せたがや水辺デザインネットワーク)	1		
170	認知症予防しようねット	7		
171	日体大周辺環境ネットワーク	6	19	
172	妙音グループ	3	9	7
173	NPO法人 アウトリーチ	3	9	
174	友舞グループ	2		
175	せたがや野川の会	1		
176	世田谷映像保存再生の会 (SEPARA)	3	11	
177	多摩川癒しの会	9	7	1
178	かみまち世田谷風景じゅく (現 世田谷風景じゅく)	12	4	1
179	Y'sガーデン (No.173へ継承)	4	9	
180	世田谷をおもしろくする会「わたしとしたのやブ」プロジェクト	4	12	
181	小田原表情隊	4	11	
182	NPO法人 せたがや子育てネット	2	4	

## 2007

183	NPO法人 砧音楽療法研究会	7	3
184	塚戸小学校 おやじの会	2	
185	花と健康サミット世田谷	3	8
186	ドリームフレンド・風	9	
187	四季の小径の会	4	2
188	東深沢・等々カココミュニティ	6	
189	代田川緑道保存の会	1	4
190	成城くらしの道を考える会	14	6
191	北沢川文化遺産保存の会	11	
192	区役所周辺まちづくりの会	17	
193	ヘルプミーの小旗の会	9	
194	青少年船橋地区委員会子どもぶんか村「まち探検くらぶ」	6	12
195	NPO法人 映画表現育成協会 FILMe フィルメイ	3	
196	世田谷城跡保存会	11	

## 2008

197	喜多見ジュニア隊	19	
198	地域デビュー相談室 (現 世田谷地域デビューの会)	7	
199	喜多見ワンワン訪問隊	19	
200	ノイエハウス・サロン「心グルメ」の会	3	
201	梅ヶ丘ジュニアオーケストラ	15	3
202	仙川・緑と水の会	11	1
203	わいわいコミュニティ・たまがわ	2	5

204	ハンギングバスケットの会	8	
205	万年青の実	1	
206	豪徳寺駅周辺風景づくりの会	11	
207	深沢・桜新町さくらフォーラム	11	6
208	長島風景の会	11	1
209	梅丘まちづくり塾	9	
210	読書空間 みかも	4	11
211	NPO法人 4connection (現 NPO法人 Educational Future Center)	6	
212	崖線みどりの絆・せたがや	1	
213	食べごと研究所	8	
214	創造の家	4	3
215	芦花公園しあわせの野音の会	3	

## 2009

216	T&Iリーダーチーム	15	
217	フラワーランド園芸ミニディ	8	7
218	ふれあい喫茶「窓」の会	7	
219	せたがや自然農実践倶楽部	16	4
220	道の会	14	6
221	Seema Seema Factory	4	
222	ワッフッフ!	1	
223	岡さんのいえ TOMO	4	19
224	山下・豪徳寺地域情報発信基地設立準備会 (現 NPO法人 まちこらぼ)	4	12
225	野草の会	4	7
226	NPO法人 プレーパークせたがや (羽根木拠点づくり)	2	4
227	桜新町小さな森を守る会	4	1

## 2010

228	リエゾン	18	3
229	千歳小おやじの会	2	
230	NPO法人フード・風土	16	
231	アロマ×セルフケア協会 Selfeel (セルフイール)	2	
232	芦花ワンクラブ	19	
233	ようが*アワーズ	3	12
234	Welcome ch. (ウエルカムチャンネル)	19	
235	世田谷トラストまちづくり大学同窓会	5	
236	お母さん業界新聞 せたがや版 編集部	2	3
237	Green Kids Cafe	16	
238	街づくりの仲間たち	5	
239	桜並木と呑川緑道公園を守る会	1	
240	喜多見 (キタミィー)	3	
241	野川(世田谷区部) の多自然川づくりを考える連絡会	1	
242	SAN/せたがや地域共生ネットワーク 宮坂・経堂・赤堤	4	5
243	東京グリーンプロジェクト	16	2
244	水俣世田谷交流実行委員会	9	3
245	ユニバーサル・キッズ・デイキャンプ	2	9
246	放課後あそび舎	2	
247	EARTH CREW	10	3
248	からすやま・地域の力を集める会 (現 (株) まちづくりステーション)	4	5

## 2011

249	子どもでつながるハートくらぶ	2	9
250	あかねこうぼう	4	3
251	トランジション世田谷 茶沢会	10	
252	Home care team meeting 自由が丘	18	
253	どんどんガガガ隊!	3	12
254	フレンドリーグループ	8	
255	パーマカルチャーガーデン世田谷	1	10
256	からすやま・地域の力を集める会	5	
257	きっかけファクトリー	16	
258	NPO法人 玉川にエコタウンをつくる会	10	1
259	働きたいママの応援Cafe	4	2

## 2012

260	NPO法人 日本防災士会世田谷支部	17	
261	ヨガ・ヒーラー・アソシエイツ	18	
262	無職FES実行委員会	15	
263	スマイルプラネット	2	
264	下北沢カレー王座決定戦実行委員会	12	
265	カタクリの会	3	11
266	椎の木の子の会	4	7
267	世田谷・L i e n	2	7
268	アルファキッズクラブ	2	
269	よみきかせボランティア藤の会	7	
270	世田谷区民のライフスタイルを考える会	10	13
271	アート・イン・ファーム世田谷実行委員会	16	3
272	下北沢発: シンデレラ・プロジェクト	12	19
273	世田谷環境学習会	1	
274	世田谷空き家再生生活用協議会	4	13
275	福島の子どもたちとともに・世田谷の会	2	19
276	こちカフェ隊	19	

2013

277	LAVANDULA	7	9
278	ツール・ド・デザイン	6	18
279	KADAN23	8	
280	在林舎クラブ	6	4
281	街の木を活かすものづくりの会 (現 (一社) 街の木ものづくりネットワーク)	10	6
282	0円マーケット「くるくるひろば」	10	
283	commons・ファーム	4	
284	une petite maison	19	
285	マナブ de アソボ づくリンク	3	
286	一般社団法人 グリーフサポートせたがや	19	
287	食でつなぐ輪・和・話	16	19
288	世田谷区マンション交流会	5	
289	「品川用水」の復活研究会	11	6
290	ハートロールファイブ 上町コミュニティ計画運営委員会	17	
291	ダイタ森イチバ	12	
292	明大前駅周辺地区街づくり協議会	14	
293	世田谷録音奉仕グループ「ひびき」	9	
294	世田谷代田もの・こと祭り実行委員会	12	
295	国境なき楽団	3	7
296	NPO法人 グリーンライン下北沢	14	5
297	旧柳澤邸を保存・活用する会	4	11
298	劇団ほぼ無職	15	19
299	せたがやカフェ	4	
300	NPO法人 ら・ら・ら	4	
301	CRAFTMAN世田谷	17	
302	キャラメルポップコーン	15	

2014

303	等々カフラワークラブ	8	
304	いいおかさんちであ・そ・ぼ	2	4
305	下北沢美術館	15	12
306	松蔭神社ポケットファーム	16	
307	みどりの会	4	
308	北小わくわくピオトープの会	1	
309	ZUTTO-KOKO(ズット ココ)	7	4
310	「カレーまんの家」を作る会	12	
311	もぐら公園大型遊具・モグリープロジェクト	4	2
312	せたがママ・マルシェ実行委員会	19	2
313	旬のものをみんなで美味しく食べる会	7	16
314	世田谷区スポーツ鬼ごっこ普及推進委員会	18	
315	烏山地域自転車等適正利用協議会	14	
316	車椅子に乗って街を探検!「バリッパ」を作ろう	14	19
317	かいっちゃんち 紅茶クラブ	2	
318	Activity For Students	15	
319	北沢小学校合唱団	15	
320	地域デザインブランド「futaoolab」 (現 関) フククプラス)	9	3
321	NPO法人 せたがや水辺デザイン・ネットワーク	19	1

2015

322	世田谷楽しいコミュニケーショングループ	19	
323	世田谷区庁舎のケヤキ並木が作る広場の風景を 愛する会	11	
324	NPO法人 若者の自立支援「Smile Bouquet」 すみれブーケ	19	
325	暮らしの中で和を楽しむ会、柏葉会	3	11
326	せたがや 子ども・ワカモノ ねっと	15	16
327	東大原小学校おやじの会	2	
328	ビジュアルコミュニケーション研究会 世田谷	3	
329	C.R.S (コマースナル・レクリエーション・サービス)	19	
330	実家なんとかし隊	13	7
331	おはなし会ボランティア『ブークとスピン』	2	
332	Morning Project Samurai-Setagaya Division-	19	
333	ゆるとびあ	15	
334	早稲田大学卯月ゼミナール世田谷班	6	
335	NPO法人 世田谷グリーンソサエティ	1	
336	NPO法人 せたがや移動ケア	7	9
337	一般社団法人 凸凹Kidsすべいす	9	4
338	High人	15	
339	engawa和	15	

2016

340	区の花「さぎ草」を愛する会	1	11
341	下ノ谷緑日実行委員会	12	
342	認知症うちカフェ★キラリ会	7	4
343	あみ∞あむ	17	
344	小径のノエル実行委員会	12	
345	ひよっこり兵庫島	2	
346	NPO法人 カブラー	7	9
347	紙風景	6	

348	風と光と虹のバレード事務局	19	
349	ミュージック&ネイチャー	3	
350	NPO法人 かぞくの社	2	
351	おひるのかほり	19	
352	エコロジカル・デモクラシー観測グループ (現(一財)エコロジカル・デモクラシー財団)	5	
353	桜んぼ塾	2	
354	ウルトラキッズ応援団	2	
355	hidamaru	2	
356	「結 お〜くらんど」	3	1
357	NPO法人 ArrowArrow	19	

2017

358	息・活・音 (いきいきね)	7	
359	世田谷おはなしネットワーク	2	
360	いけばな華風	3	11
361	まちのわごはん実行委員会	16	
362	いもむし ごろごろ	2	
363	シモキタ名人戦実行委員会	12	
364	中町コミュニティサロンプロジェクト	4	
365	NPO法人 車椅子社会を考える会	17	
366	被災地とつながる市民ネットワーク世田谷	16	5
367	Setagaya Mi-Ni Project (昭和女子大学国際学部英語コミュニケーション学科アド'マゼ'ミ)	19	6
368	みんなのリーダーハウス計画実行委員会	2	4
369	下北沢にて製作委員会	3	12
370	一般社団法人 アニマシオン トイ	9	
371	世田谷ドリーム ーセタドリー	3	
372	ピオキッズ実行委員会	3	
373	OYAMACHIプロジェクト(現(一社)おやまちプロジェクト)	6	
374	NPO法人 UNELMA	9	

2018

375	NPO法人 TOKYO COTTON VILLAGE	3	
376	人形劇グループ「チチン・ブイ」	2	3
377	記憶をつなぎ人をつなぐ世田谷区庁舎をのぞむ会	11	
378	みんなのコミュニティさくら	4	
379	平井さんちの縁側チーム	4	
380	緑友会	7	1
381	NPO法人 せたがや喜多見農とみどり	16	
382	一般社団法人 東京ヒューマンライブラリー協会	19	
383	音楽療法せたがやくらぶ	7	
384	認定NPO法人ホームケアエクスパーツ協会 コミュニティ音楽療法グループ	7	
385	世田谷みどり33協働会議	5	1
386	世田谷ワーキングマザーの会	2	19
387	和解支援センター東京 (現(一社)東京メディエーションセンター)	19	
388	ダンスラボラトリー	9	19

2019

389	烏山クラシックカフェ実行委員会	3	
390	Aki Cafe コミュニティ	4	
391	まちピアノプロジェクト実行委員会	12	14
392	にこたま和友会	3	
393	高学年の居場所づくりサークル ~I BASHO	2	
394	myparty	2	
395	ピンクシャツデーNIPPON	19	
396	下北沢 リンク・パーク	12	
397	みんなでごはん ひるごはん	2	
398	みんなの学び舎	2	
399	Hapipro (Life is happy project)	19	
400	女性起業家交流会 L.We【エル・ウィー】	19	
401	おでかけサポーターズ	7	
402	0歳からの音楽会実行委員会	3	
403	三茶よいしょチーム	12	
404	学生団体コマフク	19	
405	JK防災広め隊	17	
406	ハコブネ	3	
407	つながるホコ天プロジェクト	6	

2020

408	世田谷ごちゃまぜふくしSDGs	19	4
409	J C@Home	19	
410	ひきこもり居場所カフェ	19	
411	起業女子部イヴの木(現(一社)イヴの木)	17	19
412	劇団・せたがや創作紙芝居	3	
413	世田谷区立等々力小学校 ゆかいな仲間たち	10	

2021

414	大豆だいすき研究会	16
415	音楽サロン・コンサート実行委員会	3
416	まちかどデジ活	3
417	和みの庭	7 8
418	箱庭カフェ	4
419	Pollinators	10
420	幾何学EXPO 実行委員会	3
421	経堂まちあそびの会	2
422	HOME IN JAPAN	19
423	ダナダナ	12 6
424	Mishuku R. 420	12 14
425	世田谷実践室	14 12
426	Sharers	15
427	Canver-Station	4
428	一般社団法人 CO-SAKU谷	4 2
429	みんボラ 世田谷	19
430	らくらくハウス	4 2

2022

431	NPO法人 親子サポート・一本の樹	3 2
432	お笑い3ちゃんねる	19 3
433	世田谷はなみずきの会	19
434	太子堂ワークショップ準備室	2
435	おやこシギ発見クラブ	2
436	しげんのまち	2
437	Hisae Style -walk&color-	18
438	おきらくごきらく広場(現(一社)じゅんぐり)	2
439	せたキャン	15 2
440	ごちゃまぜラーニングセンター	2
441	F-light	19 15
442	一般社団法人 シモキタ園藝部	19 1
443	一般社団法人 ななつのこ	4
444	祖師谷子育てネットワーク「そこだね」	5 4

2023

445	きものおほりこ 七彩庵	3
446	SOPH	2
447	話そうじゃないか	19
448	世田谷マップDXプロジェクトチーム	3
449	世田谷ネットワーク・レジリエンス -健康・環境・防災-	17 18
450	まほろばBACE	7
451	認定NPO法人 CFFジャパン	2 19
452	サステナキッチン	2
453	社会福祉法人 せたがや桜の木会 上町工房	9
454	@ and me ~nursing	2
455	NPO法人 未来のカタチ 世田谷まちづくりプロジェクト	15
456	おやこ文化プロジェクト (現 NPO法人 和と人の交流ちとせ)	3

2024

457	よそらまめ	15
458	チームフランボネ	19
459	まっちはこっち	2 3
460	子育てサロンほっこり	2
461	世田谷中町コーヒークラブ	7
462	自然栽培ダイチの力	16

2025

463	上野毛ダンディーズ	7
464	桜上水子育てグループさくらっこ	2
465	雨庭ネット世田谷	1 17
466	バイリンガル絵本クラブ“Marry(マリー)”	2
467	NPO法人 日本セラブレイ協会	2
468	Team つるまき Green	1 2
469	緑道愛好会にわにわ	1
470	ワクワクぼうさい	17
471	一般社団法人 シェア実家	4
472	Slow Food Community SetaBio	16
473	世田谷アートキャラバン!	3
474	tatata laboratory	15 19

## 歴代ファンド助成グループ アーカイブ 凡例

各グループの白抜き数字の番号は活動テーマです。  
応募用紙や活動報告に基づきトラストまちづくりが  
分類しました。

- 1 みずやみどり(生きもの含む)等の学習・保全・活用等の活動
- 2 子育て、子どもの居場所づくり等の活動(小学生まで)
- 3 文化・芸術系・メディア・情報発信等に関する活動
- 4 地域の拠点づくりの活動(公共施設の活用も含む)
- 5 まちづくり活動支援や交流ネットワーク形成をめざす活動
- 6 地区まちづくり及びまちの発見や愛着を高める活動
- 7 高齢者対象の社会参加や福祉まちづくり活動
- 8 花づくりや環境美化の活動
- 9 障害者や病人等が対象の社会参加や福祉まちづくり活動
- 10 エコロジー・リサイクル・エネルギー・公害等の環境活動
- 11 歴史文化をいかしたまちづくりや地域風景資産の保全活動
- 12 まちの活性化や商店街等の振興やPR等の活動
- 13 住まいづくりや住まい方に関わる活動
- 14 道路・駅・緑道等の道路交通や交通安全に関する活動
- 15 中高生及び若者の居場所づくりの活動
- 16 農と食育に関わる活動
- 17 防災・防犯等の安全・安心のまちづくり活動
- 18 地域の医療・保険・健康・スポーツ等に関わる活動
- 19 その他の活動

# 2024 年度日本都市計画学会賞 石川賞を受賞しました

日本都市計画学会賞は、公益社団法人日本都市計画学会が年1回、学術及び技術の進歩に貢献した論文・計画・設計・事業等を対象に、学会賞を授与するものです。石川賞は、日本都市計画学会賞の中でも都市計画の進歩・発展に顕著な貢献をした個人・団体に授与される賞です。

世田谷トラストまちづくり、ファンド運営委員会、三井住友信託銀行、世田谷区との合同受賞となりました。

## ●受賞内容●

作品名：

公益信託世田谷まちづくりファンド

受賞者：

世田谷まちづくりファンド運営委員会  
一般財団法人世田谷トラストまちづくり  
三井住友信託銀行  
世田谷区



## ●授賞理由●

(出典：日本都市計画学会ウェブサイトより <https://www.cpij.or.jp/upload/file/2024.pdf>)

公益信託世田谷まちづくりファンドは、1992年、公益信託制度を用いて設立された基金であり、30年以上も継続して活動を続けてきた。当ファンドの応募件数は、30年間(2022年まで)で延べ1084件、助成件数は866件にのぼり、助成金総額は約2億3800万円、助成対象は延べ433グループと、市民主体のまちづくりとしての実績・成果は、全国的に見て極めて顕著である。

特に高く評価される点として、ファンドの仕組みが単に資金を助成するだけではなく、世田谷トラストまちづくりが活動を支援していること、行政と区民だけではなく、企業も寄付という形で参画する包括的な仕組みとなっていること、運営委員にファンドの卒業生が複数関与するようになっており、自分たちが提案した活動の推進に留まらず、広くまち全体のまちづくりに関与しようという人財の発掘・増加にも大いに寄与していることが挙げられる。いわば、我が国のまちづくりファンド、中間組織のモデルとなったと評価できよう。

近年、全国的に自治体の都市計画が大規模な再開発等に注力されることが多く、市民主体の地域に根差した地道なまちづくり活動に対する公的な関与・支援の動きが、以前に比べて低下している状況にある。しかし、今後、時代のニーズに合わせて生活圏として再生を進めていく必要性が高まっている今、地域に根差したまちづくり活動との連携・協働が必至である。そのためには、公益信託世田谷まちづくりファンドによる市民主体のまちづくりへの継続的な支援活動の重要性・必要性・効果を広く社会において再認識・共有することは、極めて重要である。

## さいごに

公益信託世田谷まちづくりファンドは 2025 年に信託財産が終了しました。この間、多くの方々に運営に協力いただき、多くの方々に活用されました。

ファンド設定時に想定していた「まちづくり」は、この 30 年でその意味合いも大きくひろがりました。この 30 年は、常に「ファンドはどうあると良いのか?」「世田谷というまちに暮らす人たちのまちづくりとは?」を運営委員のみなさまと考える続けてきたと言えます。

助成グループの継続調査を通じて、初期の頃を含めたグループが現在も地域で広く活躍されていること、ファンドが 2 世代・3 世代にわたりそれぞれの活動で活用されていることなど、ファンドがさまざまな形でまちに波及していることがわかりました。また web アンケートからは、グループの多くがさまざまな運営課題を抱えながらも、社会への熱い想いを持って活動をされていることが伝わってきました。

ファンドは、誰もが世田谷のまちのつくり手になれる助成事業です。ファンドによって芽吹いた活動を支え、新たな種や芽をこれからも発掘していくために、世田谷トラストまちづくりでは、ファンドを継承する形で、「世田谷トラストまちづくり活動助成事業」をスタートいたしました。複雑化する地域課題への対応には多様な主体による支えあいが求められており、区民主体のまちづくり活動を促進し支援していくことは、区民が望む誰もが安心して快適に暮らせる地域共生のまちづくりに向けて今後も求められていることです。

今回のまとめからファンドが世田谷のまちづくりの新たな可能性をひらいてきたことを知っていただくとともに、当財団ではこの蓄積を活かして、新たな助成事業に関わる方々と試行錯誤しながら引き続き進んでいきたいと思えます。ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、総勢 75 名の運営委員のみなさま、事業運営を支えてくれたサポーターのみなさま、受託者である三井住友信託銀行さま、世田谷区の関係所管のみなさま、ご寄附をいただいた多くの方々に、そしてファンドにチャレンジしてくれた全てのグループのみなさまに改めて感謝を申し上げます。

# 世田谷トラストまちづくり活動助成事業への ご寄附のお願い

世田谷トラストまちづくり活動助成事業の助成財源は、みなさまから寄附金によって支えられています。当財団の「まちづくり活動基金」を通じて活用させていただきますので、世田谷の区民まちづくり活動へのご支援をお待ちしております。

当財団への寄附は、公益財団法人への寄附金として、税制上の優遇を受けることができます。



寄附の使用目的は

「まちづくり活動助成事業(まちづくり活動基金)」  
をお選びください。

## -寄附の方法-

クレジットによる寄附はこちらへ  
そのほか、財団窓口や郵便振替・  
銀行振込でも承っております。



## アーカイブ情報

以下について、財団ホームページでご覧いただけます。

公益信託世田谷まちづくりファンド これまでの成果



## 世田谷のまちづくり 50年の年表

展覧会 世田谷のまちと暮らしのチカラ  
～まちづくりの歩み 50年  
(2024.131-4.21) で作成した年表など  
展示内容をご紹介します。






ファンドがひらいた  
**世田谷の**  
**まちづくり**  
1992-2025年

---

発行日：2026.4.1

発行：  公益財団法人 世田谷トラストまちづくり

〒156-0043 東京都世田谷区松原 6-3-5

TEL：03-6379-1621